

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	自己免疫疾患の発症メカニズムに関する研究 (自己免疫性神経疾患におけるヒト DCIR の機能理解とその制御方法の探索)
研究開発期間（西暦）	2024年5月～2026年3月
研究機関名	東北医科薬科大学医学部免疫学教室
研究責任者職氏名	准教授・海部知則

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

自己免疫疾患の発症に関する受容体（抑制性 C 型レクチン受容体：DCIR）が見いだされ、マウスにおいてはこの受容体に NA2 といわれる糖鎖が結合することで病状が緩和されることが分かりました。我々は、DCIR のヒト免疫細胞における発現状態の解析と病態形成に関する生体内に存在する自己成分（細胞成分など）を検出します。これから自己免疫疾患の発症機序・病態形成の仕組みを理解し、新規治療法の開発につながると期待しています。

2 使用する献血血液の種類・情報の項目

献血血液の種類：検査残余血液（全血）

献血血液の情報：なし

3 共同研究機関及びその研究責任者氏名

《献血血液を使用する共同研究機関》

なし

《献血血液を使用しない共同研究機関》

なし

4 献血血液の利用を開始する予定日

2024年6月17日（献血血液の供与開始後）

5 研究方法《献血血液の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液のヒト遺伝子解析：□行いません。■行います。

《研究方法》

- ヒト DCIR の発現様式を解析するために血液中のリンパ球細胞の機能をフローサイトメーター(FCM)で検出します。献血血液から末梢血細胞を回収し、各免疫細胞の抗原マーカー抗体とヒト DCIR 抗体で染色し FCM で解析します。自己免疫疾患の患者サンプルも同様に解析し、ヒト DCIR の発現状態を比較します。ヒト DCIR 抗体は独自に開発したモノクローナル抗体です。

- 自己免疫疾患との関連が示唆される自己成分を検出するために、血清中の自己成分を回収後、qPCR(定量 PCR)を行います。qPCR では遺伝子の発現量を検出しますが、遺伝子の核酸配列は決定しませんので個人を特定するような解析は行いません。自己免疫疾患の患者サンプルも同様に解析し自己成分の発現量を比較検討します。

6 献血血液の使用への同意の撤回について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

7 上記 6 を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

所属	東北医科薬科大学医学部免疫学教室
担当者	海部知則
電話	022-290-8726
Mail	kaifu@tohoku-mpu.ac.jp